

自転車雑誌

月刊、というより気まぐれ刊 ワンマン適当編集 創刊号



自転車界の大物も細かいイノブネもご紹介しません！

特集1 エアロード“戦国時代”

各社エアロード勢ぞろい、今年の新トレンドを素人目線でまるごと解明！

特集2 今月のネタモノ

話題のSRAM12速RXSから便利商品まで！ 素人がうなるアイテム

特集3 「今」見るべき自転車 Youtuber

「今」見たいのは？ ドクターと人ノケノケで選ぶ自転車 YouTuber

創刊の「あいさつ」

読むところしか無い自転車雑誌を作りたい

突然ですが、自転車雑誌、どれ読んでも、読むところ、少なくともありませんか？ 小生は広告も隅から隅まで目を通すので気になりませんが……いや、やっぱ気になる、ってか、これならデザインはプロじゃないからガバガバにしても、似たようなものなら、自分でも出来そう……（自信はない）。暇だからやってみるか！ の精神で出来たのがこのWebマガジン（物理）です。基本パンフレット以下の出来ですが、そこはまあ置いといて、何か禁則に引っかかるような、まずい表現があったり、ミスがあったりしたら、教えてください。「無責任編集」は建前です。



編集長

「平成」の終わりのこの良き日に

目次

創刊のこあいさつ 1

創刊にあたってのらんぬんかんぬん

エアロード"戦国時代" 3

時代はエアロード！ イカしたエアロなヤツをイキます

今月のテーマ /

今月注目のテーマ / をごしょうかいします。

「今」見るべき自転車 Youtuber

自転車 Youtuber も増えてきたけど、どれ見れば

いいの？ ってギモンにお答えします

編集部コーナー、というか独り言

こんちとこまを讀まなくともいいです。

たたき台なりの基本雑です。

デザインは後々直します。

END OF HEISEI AERO ROAD WAR

Which is the “WINNER” ?

Every model is here

ついに役者が揃った——2019年、ロードバイク市場はエアロロード戦国時代となった。キャノンデール「SYSTEM SIX」の登場で有名メーカーにおけるエアロカテゴリーは埋まった。今回はそんな「エアロロード戦国時代」のトレンドを読み解いていく。

Aero road Trend Five

今年がエアロロード元年云々と呼ばれるのは、ただエアロロードが揃ったからだけではない、各社が一つの「トレンド」に合わせて「足並みを揃えた」形で新作を発表したことにあるだろう、これまでのように右を見ても左を見ても怪物のようなエアロロードが聳え立っており、市場において全く違うものを比較し、選択してきた時とは違うのだ、ユーザーは一定の基準を持ってどれを選択するのか、時代はそこに来ている。以下で今年のトレンドを紹介したい。

Disc Brake Nize

今年のエアロロードを語る上で、まず重要なのはリムブレーキからディスクブレーキへの移行だろう、これまでのエアロロードのブレーキはダイレクトマウントやBB下ブレーキ、或いは各メーカー独自でフレームに合わせた独自開発のブレーキが用いられてきたが、ここで遂にディスクブレーキ化、これによって設計の自由度が高まり、同時にエアロロードが主戦場とする高速度域でのコントロールカも飛躍的に向上した。



みんな大好きフラットマウント



6つのシステムを統合した

System Six

System Integration

ディスクブレーキ化に伴って進んだのがこれだ。各社が自社、或いはパーツメーカーとの協業によって、フレームだけでなく、「統合体としてのエアロロード」の開発に大手メーカーが踏み切ったのが今年のトレンドと言えよう。これによってケーブルの完全内装化、電動コンポーネントとの親和性の向上、専用設計の自社ホイール等、さらなる統合に拍車がかかっている。

Mild Aero Road Era

これまでのエアロロードは過激なエアロ化、独自規格化——いわゆる「エアロロードの怪物化」の結果として「整備性」が失われてしまっていた。メカニク泣かせ、ユーザー泣かせ、メンテはしにくい、ポジション合わせにくい、そんな感じだったエアロロードも過激化は一段落、ユーザーが扱いやすいものへと変化を遂げている。



S-Works Venge Vias の悪夢のような内装作業

Improvement of Comfortableness

いままでのエアロロードは縦剛性の高さが目立っていたせいでやたらと「乗り心地の悪い」ものだったが、エアロだけでなく、剛性の最適化にも寄与するカムテールデザインの積極的な採用、シートチューブ交点のオフセット、D型断面のシートポストの採用による「しなり」の増加、そしてディスクブレーキ化によるシートステーブリッジの排除も功を奏して快適性にも改善が見られるようになってきた。レースだけでなく、それ以外の面でもライダーに寄り添うバイク、というのがスタンダードの時代の到来は近い。



GIANT の D-fuse シートポスト

Aero All Rounder and All Round Aero Model

ここまでのエアロロードの流れの中では、エアロロードは主にスプリンターやパンチャーなどに平坦での勝負をするマシンとして用いられてきたが、今年のエアロロードは重量などとともに山岳や緩斜面での勝負にも持ち込めるようになってきた。それと同時に、オールラウンドモデルも空力特性の考えられたものになってきた。快適性の向上と合わせて、これからはエアロ・オールラウンド・エンデュランスという区分はなくなるのではないかとも思わせる。



オールラウンドエアロの代名詞

ここからは 2019 年モデルとして、この群雄割拠の「エアロロード戦国時代」を戦っていくバイクを紹介する、なお、当然のことだが、この雑誌はアマチュアの作っているものであり、すべてを紹介することは出来ない、ここだけは留意しておいてほしい。

ARGON18 NITROGEN DISC

『ニトロゲン』ではなく『ナイトロジェン』と発音しよう。シーズンインから好成績を出しているアスタプロチームにも供給されているはずだが、みんなこぞって GALLIUM PRO ばかり使うので折角ディスク仕様が出てきたのにも関わらず、結局は謎のバイクになってしまっている、フレームセットで32万円は結構お得？ワカンネ。



BMC Time machine Road 01

今期からディメンションデータが使用するバイク。エリート社との協業でボトルケージまでトータルで設計し、速さにアプローチした。トータルインテグレーションという面で一歩先を往く、カヴェンディッシュの今シーズンのグランツールでの走りを強烈にアシストすることだろう。一般のライダーにとってはストレージ（レースでは使用不可）が地味にありがたい。



BH G7 pro disc

ベテランプリンターであるアンドレ・グライペルと2017年のツール山岳王フレン・バルギル擁するプロコンチネンタルチーム、アルケア・サムシクのバイク（チームはリムブレーキ仕様）近年となつてはやや珍しいセミインテグラルシートポストを採用しているのが印象的、既に今シーズン一勝を挙げているグライペルとともに一層の活躍が期待される。



Bianchi Oltre XR4 Disc

小生の推しチーム、ユンボ・ヴィスマが使用するビアンキのオールラウンドエアロード OLTRE XR4 のディスクブレーキ版、実戦投入されるかは分からないものの完成度は高そう（KONAMI 感）今期のカラーリングはビアンキ栄光のメルカトーネ・ウノ時代のものに近い、と思うと興奮が止まらない。



CANNONDALE SYSTEM SIX Hi-mod

ほぼ毎年名前が変わっているチーム、今年はEFエデュケーションのまま、が使用するバイク、エアロードを頑なに出さなかったはずが、いざ出てきたと思ったら、ドイツ Tour 誌のテストで最速の称号を獲得したスーパーバイク、実際のフレームを見たが、日本人が乗るであろう小さめのサイズのビジュアルはやや残念？。



CANYON AEROAD CF SLX disc

ディスクブレーキを全面採用したチーム、カチューシャ・アルペシンと世界王者バルベルデ擁するモビスター（こちらはリム）が使用するバイク、両チームともに話題の12速コンポーネントを使用するだけあって話題性十分、そろそろモデルチェンジしそうな時期ではあるが……所謂登れるエアロードのはしり？ 重量も軽め。



Cervelo S5 Disc

今期からサンウェブにバイクを供給するサーヴェロがエアロード戦線に投入したのはY字型ステムという奇抜なスタイルと前作を凌ぐ圧倒的な空力性能を兼ね備えた新型 S5、エアロードのパイオニアとしての威信をかけた新作だ。ちなみにコスパを考えると、セカンドグレードの S3の方がおいしい気もする。



COLNAGO CONCEPT disc

クイックステップからガビリアを迎え、アレクサンダー・クリストフとダブルスプリントエースをとる UAE チームエミレーツが駆るイタリアンエアロード、熟練の職人によるペイントは美しいが、2019年モデルからロゴがダサくなった（個人の意見です）。ラグジュアリーバイクの印象が強いが、よくサイクリングエクスプレスで特価になっている。





DE ROSA SK pininfalina

コルナゴと並ぶ古豪デローザのエアロード、日本人選手も多く所属するプロコンチネンタルチーム NIPPOヴィーニファンティーニがフラッグシップモデル PROTOS とともに使用する。先述のコルナゴとともにサイクリングエクスプレスの特価商品の常連となっており、意外と手の出そうなバイク。

Eddy Mercks EMS25 Disc

今シーズンより AG2R のメインバイクとなったのは伝説の選手エディ・メルクスの名と通算勝利数を冠したバイク、ディスク仕様が実戦投入されるかは不明だが、フランス期待の星であるロメン・バルデの熱い走りを支えてくれることだろう。個人的に AG2R カラーのバイクは好みだ（画像は通常モデル）



FACTOR ONE Disc

2017,2018 シーズンに AG2R をサポートしていた FACTOR のバイク、どちらかということチームは O2 を使用している場面が多かったため、あまり目立たなかったが、双胴式のダウンチューブという異形のスタイル（かつてのコルナゴ「ビチタン」を思わせる）で空力特性を高めている。新進気鋭のブランドだが、実績は十分、再びビッグレースの舞台に戻ってくることだろう。



FOCUS IZARCO MAX Disc

AG2R 関係が三連続だが、こちらも 2016 年シーズンまで同チームをサポート、ヒルクライムを嗜む日本のハイアマチュアにも愛されてきた軽量ロードイザルコマックスが軽量性を残したままエアロ化、200w で 50km を走って先代より一分半速い、という分かりやすさも魅力、ホビーとしてロードバイクを楽しむ人に対して訴求力の高いバイクに仕上がっている。



FELT AR



ディスク仕様がラインナップにないが、この時代を戦っていけるのか、そんな心配は無用だ。フレームの魔術師ジム・フェルトが辣腕を振るい育て上げてきた AR シリーズである。目新しさはなくても、その質実剛健な「づくり」は市場においても光ってくる。来シーズン以降のディスク仕様の拡充を待つ、とうのも、これまた一興である。

FUJI SUPREME

日本ではチーム右京が駆るトランソニックの方を紹介しようと思っていたら、何故か公式サイトに無かったので、ウィメンズモデルのこちらを紹介（本国サイトには 56 サイズあり、メンズ？モデルだろうか）トレンドを確実に抑えたフレーム設計、個人的にはカラーリングの美しさが目を引く、コストパフォーマンスも中々魅力的だ。



GIANT PROPEL ADVANCED Disc

「カーボンロードの第三世代」を掲げて開発されたバイク、ケーブルフル内装、ディスクブレーキ、チューブレスの三本柱を持って 2017 年度はバイシクルクラブの日本バイシクルオブザイヤーにも輝いた、が……サンウェブ、CCC チームともにオールラウンドロードの TCR を駆る場面が多く、ビッグレースで姿を見ることは少ない。



KUOTA KOUGAR

今年はコフィディスにバイクを供給し、お騒がせなスプリンター、ナセル・ブアニなどの勝利に貢献するクオータ、彼らが駆るフラッグシップの KHAN は純粋なエアロモデルではないのでこちらを紹介、クーガーは 2019 年にモデルチェンジ、エラストマーダンパーの搭載と前後の入れ替えでロード、TT とバーサタイルな使用が可能となっている。



lapierre AIRCODE SL ULTIMATE

今シーズンも FDJ をサポートするラピエール、フレンチトリコロールが目にも鮮やかなこのエアロロードはアルノー・デマールのスプリントウェポンとして用いられる。流線形の有機的なフォルムが特徴のこのバイク、ディスク化こそしていないものの、ビッグレースで高い性能と存在感を示し続けている。



LOOK 795 BLADE RS Disc

昨年のツール前にいきなりスポンサー変更の憂き目にあってしまった「いつかは……」ブランドの一つ、ルックが出してきたのがこの新しい 795 だ。以前のユニコオオオオン！！なデザインからは卒業し、シンプルながらもより性能を高めたバイクとして登場、今年はフランスのプロコンチーム、デルコ・マルセイユプロヴァンスに供給されている。



MERIDA REACTO DISC TEAM-E

全グランツールを制したヴィンチェンツォ・ニバリ、そして我らが日本のエース、新城幸也擁するバーレーン・メリダが使用するのがこのバイクだ。独自のディスク冷却機構も搭載され、順調に実戦投入されつつあり、バイクに関しても好感触らしい。ユキヤとともにグランツールの舞台に上がってこることを期待したい。



ORBEA ORCA AERO

「剛性」という言葉をロードバイクにしたらこんな形！というのがぱっと目で頭に浮かぶ超マッシブなエアロロードバイク、2018 年モデルで登場し、2019 年モデルでディスク化は最早既定路線、2018 年ブエルタのラ・カンペローナでの劇的な一勝が記憶に新しいエウスカディ・ムリアスに供給されている。今年もブエルタで活躍が見たい。



PINARELLO DOGMA F10 Disc

ここんところグランツールの表彰台を独占しつつあり、ともすれば観戦中にイライラさせられることもある絶対王者チームスカイ（イネオス）に供給されるピナレロの新たなる「教理（ドグマ）」がこれだ。チームはリム仕様を用いるので、あまりレースでは見ないが、間違いなく今の市場において最も価値のあるロードバイクのうちの一台として君臨しているだろう。



RIDLEY NOAH FAST Disc

今年もロット・スーダルに供給されるリドレーのバイクの中で一際目を引くのがこのバイクだろう、なんともいいがたい特異なフォルム、そしてこのバイクでシーズンインから勝利数を重ねている「ポケット・ロケット」カレブ・ユアンの存在もあり “ グライペルも驚くほどの鋭い反応と快適性”（公式サイトより引用）を実現したこのバイクから目が離せない。



Specialized S-works VENGE

新世代のエアロードのベンチマークとして爆誕したのがこの新しいヴェンジだ。前作ヴェンジヴァイアスだったころのまましく怪物エアロードらしい異形のスタイルではないが、エアロードにあるまじき軽量性を手に入れ、オールラウンドエアロードのカテゴリーを食いかねない真の「怪物」と化した。サガンのポーラハンスグローエやアラフィリップのクイックステップの活躍もあり、非常に目立つ。



TIME SCYLON Disc

ルックと並ぶ「いつかは……」なフレンチブランドタイムのエアロード、サイロン。チームへの供給はないため、中々ビッグレースでも見ないし、そもそも日本国内に所有者がいるかも分からない、そんなバイクだが、2019年度はタイムお得意のAKTIVフォーク搭載バージョンも発表され、前途は洋々、ロゴが3Tっぽいのを黙ってれば最高の一台だ。



TREK MADONE SLR Disc

なかなか勝ちきれない新エース、リッチー・ポートと幸也と並ぶ日本のエース別府史之を擁するトレック・セガフレードのバイクがこちら、前作において既に完成の域にあったが、新型の ISO-SPEED の搭載によって更に完成度を高めた一台、話題のスラム AXS を搭載し、今シーズンこそ、ポートの圧倒的な活躍に期待したい。

SCOTT Foil RC Disc

今シーズンもブエルタ覇者のサイモン・イエーツとヨーロッパチャンピオンのマッテオ・トレンティン擁するミッチェルトン・スコットに供給されるスコットのフォイル、これだけのエアロな形状をしていながらもその重量の軽さが魅力的、しかし、トップモデルのこのカラーリングは一体……、気にしないでおう。



Wilier Cento10pro

昨年引退を迎えたディレクト・エネルギーのシルヴァン・シャヴァネル、ウィリエール・トリエステーナのフィリッポ・ポッツアートに用意されていたのは同社のクロモリ時代の名車「ラマート」カラーのバイク、ギラギラとエロい金属カラーはオイルスリック、フェードカラー（マジョーラ）と並んで今年のトレンドになっている。お金があれば一台欲しいところだ。

YONEX AERO FLIGHT

最後にご紹介するのがこちら。メイドイン新潟は長岡な純国産フレーム、テニスラケットも世界の舞台で大活躍なヨネックスのエアロフライト、様々な最新の素材を投入し、丹精込めて設計されたこのフレームはまさに「日本のモノづくり」の叡智の結晶と言えるだろう。このフォルムのわりに並みの軽量フレームが恐れをなす軽さと汎用パーツによるパーツ選択の自由度も魅力的。



**存んも考え存いで好き勝手
やっつたらページが空いち
やいました。**

**かといっつて今さら書くこと
存んで存いのて空けたまま
で可わ**

**次回があればも一ちよい頑
張ろう、今後の課題で可。**

今月の「モノ」

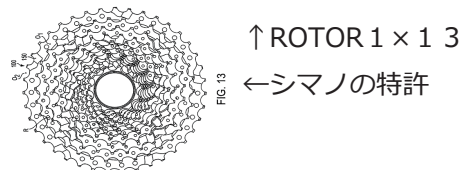
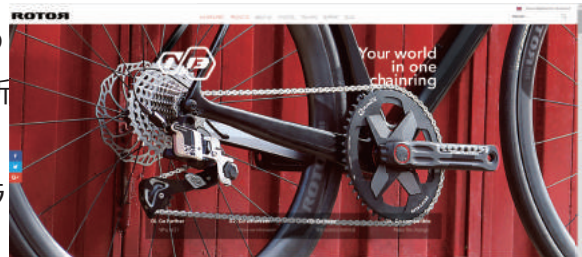
今月注目の自転車関係の「モノ」をチェック！！

毎月発表される新製品の中から個人的に「コレは！」と思ったものをご紹介します。



- redAXS** テクノロジー
- DUB™** SRAM MTB フロントハブに採用されている規格 29.99mm の最大ボンド幅は、29.2mm のハブボンド幅の約 8% の増加です。剛性と信頼性を確保した 29mm スピンナールの高剛性を保ちます。高い信頼性があり、フレームと合わせた 100% 信頼性を確保するために、既存の主要な 規格のほとんどに適合します。
- XDR™** 従来のロードフリーボディには限りなく優れた、トップダウンのセットに類似したフリーボディです。独自のロックリングは、信頼性と耐久性を確保し、XDR 規格のセットは取り外しできません。XDR は 2013 年以降のロードモデルに XDR 対応のフリーボディを採用しています。
- FLATTOP™** リア 13 速を駆動する際には、より幅広いチェーンの駆動が必要で、チェーンは「アップダウン」駆動の傾向が顕著なため、正確なチェーンの位置に正確なガイドを確保し、駆動時の軌道を向上させ、インナープレートと軸に接触するリスクを低減することで、さらなる信頼性を確保しました。
- ORBIT™** OneX システムは、デュアルチェーンコントロールの革新性を最大化します。Red AXS リアディレイラーは、駆動時のダンパーシステムとしてデュアルチェーンの駆動を安定させ、シフトを向上させます。チェーンが滑るような悪い動きは抑制し、ゆっくりとした動きや軌道は抑制するだけでなく、従来のクラッチシステムとは異なり、強力なリアディレイラーを必要としません。結果としてチェーンへの負荷を軽減し、変速の迅速さと信頼性を向上させることができました。

今月の注目商品と言えばやっぱりコレ！ 遂にあのスラムが電動無線変速 ×12 速の廉価版をやらかしました！ 肝心の变速性能は分かりませんが、redAXS で投入された様々な新技術を受け継ぎ、手を出しやすい価格でさらに革新的なコンポーネントとなっています。先代 Etap を出してからスラムは技術的にリーディングカンパニーになりつつあるのをビンビンに感じますね～。MTB の界限では既に一杯食わされてしまっているので、覇権のかかるシマノの時期デュラエースに期待がかかります。パテント的には 14 速まで行けるので ROTOR もビビらせてやりましょう。105Di2 でもいいけど……



FSA 完全内装用ヘッドパーツ、ACR システムが来る！

あとこれ、今月の企画にも関係しますが、これはでかいですよ、FSA がインターナルルーティング用の共通規格となりかねないヘッドパーツを発表したこれです。ビアンキの新型オルトレに採用された MetronACR 直系の内装システムです。Metron ハンドル専用っぽいのがちと考え物ですが、共通規格が完成すれば自転車屋さんには楽になりますね。



動画を観てもケーブルルーティングがどうなってるかはサッパリ分かりません。

やっぱり時代はチューブレス！ プロダクトを少々



先日発表された RYDER の「SLUG PRUG」、チューブレスタイヤのシーラントでふさがないタイプのパンクを何とかするためのもんです。MTB だけじゃなくて、シクロクロスとかにも向いてそうですね。「パンクでリタイヤ」は痛いですから。



←BBB のイー
ジータイヤレバー
Tyre key の Tyre
key→



あと、チューブレスと言えれば取り付けが問題ですよ、MAVIC の UST とかなら普通にハマれるらしいですが、普通にやっているとビード上がらないし指痛いしで洒落にならんと、そこでこれ、とこれ、どちらもやろうとしてることは同じなだけで、それぞれちょっとずつ違うアプローチをしてるのがミソです。

今流行りのクラウドファウンディング系の商品

サドルバッグからリュックに！ って発想自体は結構あるのですが、この魅力はなんとと言っても値段、既製品の半額くらいで買えちゃいます。

容量可変、その他もろもろも考えられた作りで 8000 円ちょいはオトクです。

「Makuake」ってサイトで見れます。このほかにも自転車系で面白そうなプロダクトはたくさんあるので是非。



全体に撥水生地を使用 反射材も装備

表面全体に撥水加工を施してあるので水や汚れに強い仕様となっております。※防水仕様ではありません。

サドルバッグ使用での後方視認性の高制材も装備



サドルバッグ等になどに上着や輪行袋を装着するのに最適な伸縮性のあるロープを装備

「今」 観るべき

独断と偏見で選ぶ



自転車 Youtuber

自転車 YouTuberも数が増えてきて、誰が面白いのか、誰を見たらいいのか、それが問題になってきている。この記事は編集長の独断と偏見によって、この飽和状態の Youtuber 市場の中で光るものを持った Youtuber を紹介する。折角の企画なので、めちゃくちゃ有名な人とかについては言及しない方向で……。URL 付きなのでサクッと見てな。



まずご紹介するのがこちら「荒北仮面」パイセン、炎上やキッズのおもちゃで名を馳せたお騒がせ炎上仮面、一時期 2ちゃんねるの自転車 Youtuber のスレで毎日取り沙汰され、〇ね〇ね言われていたが、最近は鎮火気味……にも拘わらず、相変わらず Twitter ではキッズやアンチと殴り合いを繰り返している鋼のメンタルには全く頭が上がらない。かくい編集長も最初は「なんだコイツ……クソだな……」と思いながら見ていたものの、段々クセになってきてしまったクチ、デカイ態度をとるわりに素の人の良さそうな感じが漏れ出していたり、寸劇やライブの途中で嘔んだりするなんとも言えない愛嬌があって好きだ。いいんじゃないあ。彼を弄った「ロードマン颯」とかいうキッズとは和解した模様。



次はこちら「ぶらぶらちゃんねる」基本的に、というかよほどのことがない限り、おっさん？ お兄さん？ しか出てこない。そのため絵面はお世辞にも綺麗とは言い難い、むしろやや汚い(笑)ものの、動画主の「ぶらちゃん」をはじめとして貧脚キャプテン「ターニー」ロードバイクの匠「カルロス」謎の中国人「珍さん」といった「極悪同盟」のメンバーのキャラクターがかなり濃い。動画の雰囲気が出る「水曜どうでしょう」が好きの人には特にオススメ出来ると思う、音楽もおしゃれ。カルロスよりもさらに重量級の「ブッチャー」が新加入、というかカルロスはどうした……深くは突っ込まないけど……最近では上述のロードマンとかいうキッズとの絡みもあり、極悪同盟から目が離せない。



一部では「闇商人」として人気を博しており、編集長も最新動画がアップされる度にスマホにかじりつきになってしまうのがこちら「まんまの動画」だ。闇中華、本中華のパーツレビューも最高だが、レトロなパーツを用いてのロードバイクカスタムの動画が熱い。カーボン！電動変速！エアロード！の風潮に逆行するかのようなクロモリ×Wレバーというロックな彼、動画の編集もすっきりシンプルかつキッチリオチまでいくため、サクサク楽しめるのがいいところ、MTBやピストで培った地足の良さからか何気にパワーウエイトレシオも高く、隠れ走れる系自転車 Youtuber の最右翼と言えるだろう。ちなみに syamu さんではない、コメント欄でいちいち突っ込むのは野暮だ。FRAME 所属 Youtuber とのコラボ？の一報は編集長を心配させた、彼が独自路線を貫けなくなったら本気でガッカリする。



最後に女性 Youtuber も紹介してあげよう、常に女日照りのロードバイク業界、YouTube においてもそれは同様だ。「O 宅さんは既婚者やし、M氏も既婚者やし……既婚者ばかりやんか！ワンチャン夢見させてくれへんやん！」と悲鳴を上げている読者諸氏のためにこちらの「あむちゃんねる」を紹介したい。白の LOOK がまぶしい爽やかな女性自転車 YouTuber だ。まあ、細かいことはおいといて、なんか……いいよね。本誌を読んで見始める、という諸君にはくれぐれも変なコメント等は控えて欲しい、辞められると困るからホントに。囲いが出来ても見苦しいので適切な距離感で……ね？わかるでしょ？

何はともあれ、とりあえずみんなでご覧よう！

編集後記的存 something 今月のぼやき

クソみたいなクオリティのこれを万が一にでも読んで下さった方がいたら、お礼します。ありがとうございます。

出版系のサークルに所属していて、何を血迷ったのか Adobe のソフトを登録してしまったのですが、編集が終わったのでソフトを持って余してしまい。これでブログどうにかならんかと云々やって出来たのがこれです。パンフレット並みの出来なので正直 Adobe なんかに要らんです。全盛期ほど上手く Adobe を扱えんで……申し訳ない……ブログアクセスとか増えればまたやってみます。次はもっと綺麗なのを手早く仕上げたいです。適当だし、本来二月の終わりか三月の半ばには出来ていなきやいかんかったものをダラダラやっていたら大変なことになりました。カンパも電動十二速化しちゃうし、面白いプロダクトも出てくるし……ま、しゃーない。割り切って次行きましょ、次。

なんか書くことが無くなって来たので、ここで個人の云々を少々、最近の興味はシクロクロスです。世界選手権を観てからやりたくなってしまいました。乗って、降りて、階段上がって、担いで、すごく楽しそうです。担ぎ走りとか正直よくやるので……お金があれば一台組んでみたいもんです。

フラットマウン트의油圧ディスクに前後スルーアクスルのアルミフレームカーボンフォークに手組ホイールでチューブレス、夢が膨らみますね。マジョーラカラーのシクロクロスバイクとか乗って大会に出るとかかっこよくないですか？ そうでもない？

ではまた機会があれば……次回はグラベルロード、オールロード特集とか、あとは新興のマイナーロードバイクメーカーの特集、あとはジロデイタリアとか……って感じで、また次回。

編集長の基本情報

脚質…スーパーエキセントリックハードパンチャー（予定）

今月の体重…67 kg（過去最高、MAX デブ）

今月の BMI…22.3（過去最高、MAX デブ）

大学がオフシーズンなのにも関わらず、同窓会でのナンパに失敗したショックからトレーニングをまともにしなかったため、激烈に太った。もとのイケメンに戻るため四月からシーズンイン。ダイエット中。



スポンサー待ってます！（冗談）

このWebマガジン(物理)で使われている画像は全て各種自転車メーカー、パーツメーカーの公式サイト様からのものを使用させていただいております。その他の画像はフリー素材、特徴的な表紙や題字のフォントは851ゴチカクットというフリーフォントを使用させていただいております。

次号予告？ 流行ればやります！

今年はグラベル！ オールロード！

シロ・デ・イタリア2019

直前プレビュー

**マイナー・新興ロードバイクメーカー
大特集**

**また見たい、というキトク存方は
流行らせて！**

**特別定価 みなさまの笑顔 建前
バイクから買い物して 本音**